

響く銃声!轟く轟音! 受け継がれ磨かれる射撃技術!



第3次野営

第6即応機動連隊(連隊長・中津健士1佐)は、9月8日から12日までの間、上富良野演習場において部隊の射撃練度を向上させることを目的とし、第3次連隊射撃野営を実施した。

本訓練では、第3普通科中隊による81mm迫撃砲射撃及び火力支援中隊による120mm重迫撃砲射撃が行われた。本訓練に小隊長として参加した第3普通科中隊迫撃砲小隊の橋本修曹長は、定年退官のため、今回が最後の実弾射撃訓練となる。

実弾射撃に先駆け、隊員相互の意思の疎通を緊密にして射撃に臨んだ。訓練中においては、橋本曹長の見守るなか、前進観測班は適切な射撃の標定、射撃指揮班は精密な射撃諸元の算定及び的確な射撃号令をかけ、部隊は迅速な射撃を実施して、三者の連携により、成果のある射撃が実施できた。

その後に行われた火力支援中隊の射撃も日頃の訓練成果を発揮して終了した。第6即応機動連隊は、本射撃野営では、81mm迫撃砲、84mm無反動砲、110mm個人携帯対戦車弾のほか、令和7年度陸自射撃競技会の旅団

選考会に向けた分隊戦闘射撃練成、各中隊の中核要員で構成された連隊戦技プロジェクトチーム(PJ)による小銃至近距離射撃に加え、手榴弾投てき及び爆破訓練が行われた。訓練は、現地現物による予行、確実な安全点検を実施するとともに、射場規律を厳守し、訓練事故防止に万全を期したため、予定どおり訓練は進み、練度を向上することができた。

第6即応機動連隊は、本訓練を通じて得られた教訓を糧に、さらなる部隊練度の向上に邁進していく。

第4次野営

第6即応機動連隊本部管理中隊高射小隊(小隊長・中水尚史2尉)は、9月9日から12日までの間、静内対空射撃場において、93式近距離地对空誘導弾の実射評価に参加した。

本実射評価は高射学校が編成する射撃評価支援隊が全国の近SAM小隊に対して毎年実施し、模範実射評価、射撃準備評価、対空実射評価の3項目により評価され、順位がつけられる。そのため高射小隊は高成績の獲得を目指し、小隊長を核として、早期に練成要員を決定し、段階的に練成を重ねていく。

小隊長の指揮のもと、隊員達は射撃準備を教範どおりの手順で実施しつつ、器材の取扱いに細心の注意を払い、車両の乗降の際には3点支持に着意する等、安全管理も含め減点を許さない練度をみせた。今後の警戒・自衛戦闘や対空戦闘においても同様に迅速に展開し、高い能力を発揮した。最後の戦闘姿勢発令からの対空実射では、同時に態勢をとっていた他部隊よりも早く目標を発見し射撃を実施した。高射小隊は練成の成果を遺憾なく発揮し本成果を糧に更に練度を高めていく。

令和7年度静内対空射撃に おける対空実射訓練 高射小隊



△部下を見守る橋本曹長(第3次野営・81mm迫撃砲射撃)



△砲尾から走る爆炎(第4次野営・84mm無反動砲射撃)

第6即応機動連隊は10月1日から2日の間、然別演習場で実施された、令和7年度陸自射撃競技会の旅団選考会に参加し、第1普通科中隊の小銃分隊(分隊長・新納翔祐2等陸曹)及び狙撃組(組長・芹沢諒3等陸曹)が旅団の代表選手として選考され、競技会(12月)に参加することが決定した。



△小銃分隊(分隊長 新納翔祐2等陸曹)



△狙撃組(組長・芹沢諒3等陸曹)



△実射評価に参加した高射小隊

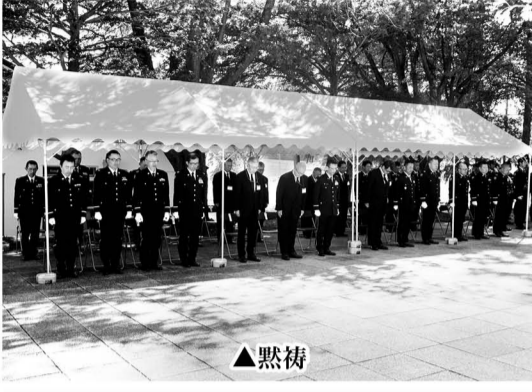
駐屯地殉職隊員追悼式 12柱の御霊を追悼 美幌駐屯地

美幌駐屯地は、9月27日、同駐屯地慰霊碑において令和7年度駐屯地殉職隊員追悼式を実施し、殉職された12柱の御霊に対し、追悼の意を表した。

式は暖かい日差しの中、美幌町長を始めとする各協力団体のご来賓のご臨席を賜るとともに、



▲弔銃



▲黙禱

本日の繁栄の礎となられた尊い犠牲を決して忘れることなく、日本を守り抜くことを、改めてお誓い申し上げます。」と追悼の辞を捧げた。

その後、参加者による献花に引き続き、儀礼よう隊（儀礼よう隊長・神戸力哉2尉）による鎮魂の思いを込めた斉一な弔銃の音が響き渡った後、参列者全員が改めて拝礼してご冥福をお祈りし、駐屯地殉職隊員追悼式は終了した。

防災意識の高揚を図る 置戸高等学校授業支援 第1普通科中隊

第6即応機動連隊第1普通科中隊（中隊長・今村周平3佐）は、9月8日、北海道置戸高等学校の授業の一環である防災訓練を支援した。

置戸高等学校2学年及び置戸中学校2年生の先生・生徒33名に対して、第1普通科中隊、本部管理中隊施設小隊及び衛生小隊のほか、帯広地方協力本部の要員が支援した。

置戸高等学校体育館において、帯広地方協力本部による概要説明後、生徒たちは3組に分かれ、施設小隊によるゴムボートでの被介護者搬送要領、衛生小隊による患者発生時の処置要領、96式装甲車による被介護者乗降訓練及び体験試乗をラウンドロビン形式で実施した。



▲ゴムボートでの被介護者搬送



▲破壊構造物探索機の体験



▲被介護者乗降訓練及試乗

96式装甲車による被介護者乗降訓練では被介護者の乗降介助の大きさを体感した。体験試乗では普段なかなか乗ることができない車両であるため貴重な体験ができたと好評であった。

また生徒たちは、試乗の待ち時間に災害救助システムのセット品である破壊構造物探索機を体験した。

第6即応機動連隊は、自衛隊と地域との連携の強化と知識及び技能の普及のため、今後も継続して支援していく。

被災者のお腹と心を満たせ！ 斜里町総合防災訓練 第3普通科中隊

第6即応機動連隊第3普通科中隊（中隊長・田中佑也1尉）は9月7日、斜里町が主催する令和7年度斜里町総合防災訓練に参加した。

本訓練では炊事及び車両展示を実施し、訓練の円滑な運営に寄与するとともに、自衛隊への理解の深化及び地域住民との一体感の醸成を図ることを目的に参加した。

第3普通科中隊は斜里町より依頼を受け、斜里町立小学校で豚汁の炊き出し、野外炊具1号及び96式装甲車甲車の装備品展示を担当した。

炊き出しは、斜里町が準備した食材を使用して豚汁300名分の調理を手際よく開始した。調理を完了し、豚汁が参加者に配られると「野外炊具でこんな美味しいものが食べられるんですね！」と大好評であり、300名分の豚汁はあっという間に無くなった。

また、車両展示では、初めて自衛隊の車両を間近で見る参加者や各協力団体の方が多数集まり、記念撮影の要望や多数の質問に対して、隊員が丁寧に対応した。

隊員は、消防団をはじめ、関係団体が準備したAR浸水路歩行体験コーナー等に積極的に参加し、災害に対する知識の涵養に努め、他団体との交流を図った。



▼手際よく豚汁を調理



▲笑顔で美味しい!



北辰新聞の紙媒体での配布は令和8年3月までです。駐屯地HPのブックマークをお願いします。

心も体もとのえる！ 美幌駐屯地にサウナがオープン 美幌駐屯地業務隊

美幌駐屯地業務隊（隊長・生稲学2佐）は、駐屯地浴場にサウナを新設し、9月1日にオープンした。

サウナは、隊員からの強い要望の末、今年度の生活環境改善の一環として、ついに設置されたものであり、施工は業務隊管理科が担当し、6月2日から7月25日まで、工事が実施された。

美幌駐屯地業務隊は、オープン以降大好評で、時には順番待ちをする隊員も多くみられ、使用した隊員からは「演習で疲れた体を癒せるのは嬉しい。また、毎日利用できるので大変助かりました」との声が多数あつた。サウナの設置により、疲れた体を癒すとともに、リラクゼーション効果が期待できそうだ。



▲念願のサウナが完成

秋晴れの下で支援と快走！ オホーツク網走マラソン支援 第6即応機動連隊

第6即応機動連隊は9月28日（日）、オホーツク網走マラソン実行委員会及び網走市が主催するオホーツク網走マラソンの大会の大会本部及び競技運営を支援し、円滑な大会運営に寄与した。

大会本部を支援する通信制組はゴール地点の大曲湖畔園地内にある大会本部に通信所を開設し、先導車及び最後尾車の位置確認、中継組は通信所と先導車及び最後尾車との中継を実施した。

また、競技運営支援として、先頭の選手を誘導する先導車、棄権者の收容を実施する最後尾車の支援を行い、選手の安全な誘導及び收容について約6時間にわたり支援した。



▲大会本部通信所を運営



▲折り返す参加選手(27Km地点)



▲参加選手を先導

連隊からも連隊長を含む多くの隊員がランナーとして出場し、秋晴れの下、日頃の練成の成果を発揮した。

本大会支援を通じて、網走市をはじめ道内外の方々との交流を深めるとともに、自衛隊に対する信頼感の醸成を図ることが出来た。第6即応機動連隊は今後も地域の行事への協力を続けていく。

寄稿文「同期の桜」

美幌駐屯地OB山本有邦氏より、
7月21日に実施した美幌駐屯地74周年
記念行事後に頂きました。

当日の美幌の気温は32度という猛暑の中で10時30分国旗掲揚塔の下に集合し久しぶりの再会を果たしました。

式典を見学した後は、部隊内の見学や懐かしい昔話などで、笑いの絶えないひとときとなりました。式典に参加された隊員及び来賓の方々大変ご苦労様でした。おかげさまで帯広方面から参加した同期も充実した思い出を持ち帰ることができました。

私たちは駐屯地と同じ年齢を重ねてまいりました。年々参加者が少なくなり寂しさもあります。が、「最後の一兵までやるぞ」との心意気は変わりません。夜は美幌の街で大いに語り合い、爆笑に包まれた宴となりました。

まさに「同期の桜」を実感しつつ楽しく締めくくることができました。



▲再開を果たした同期会

魅力あふれる食事! オリジナル献立で士気高揚

美幌駐屯地業務隊

維持、及び士気の高揚に直結するものである。そのため糧食班は、一食一食の栄養価を算出するとともに季節に応じた旬の食材の選定、栄養バランス及び毎月の行事に合わせた献立により、隊員に喜ばれる給食の提供に努めている。

また、隊員に美味しく食べてもらえるよう隊員の声に耳を傾け、管理栄養士と調理業者間で創意工夫した新メニューを逐次考案しており、その代表例は、「つけ麺」、「お好み焼」及び「スープカレー」である。

糧食班は、部隊の人的戦闘力を維持するための縁の下の力持ちであり、駐屯地隊員の一人ひとりの栄養管理、健康維持そして士気の高揚に欠かせない存在として、今後も隊員の心と体を支えるべく、栄養と愛情がこもった温かな食事を提供して、献身的な給食業務を実施していく。



▲糧食班長、栄養士、アウトソーシング調理業務者で連携



▲道外出身者にも大人気の「スープカレー」



▲隊員からの要望が多かった「お好み焼き」

フジツボマックス



美幌町役場 町民生活部
戸籍保険課 戸籍年金グループ
すずき かなで
鈴木 奏 さん

氏名	鈴木 奏	チャームポイント	たじろ×
職業	美幌町役場職員	得意な料理	カレー
星座・血液型	おひら座・A型	これからの夢や目標	信頼される職員にたじろ。
出身地	美幌町	自衛隊で見てみたい物	訓練
趣味	お菓子作り	何か一言	頑張ります!!